



傷物語
II 熱血篇

KIZUNA

全ての〈物語〉はここから始まる——

MONOGATARI

目 次

〈Ⅰ 熱血篇〉 あらすじ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

渡辺明夫 キャラクターデザイン解説

——ドラマツルギー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

——エピソード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

——ゼロサンカッター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

特別対談① 総作画監督：守岡英行×演出：宮本幸裕・・・・・・・・ 12

特別対談② キスショット・アセロラオリオン・ハートアンダーブレード

坂本真綾×羽川翼役：堀江由衣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

底意シーン解説

——駆けだす翼、唇の意地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

——vs ドラマツルギー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

——キスショット、12歳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

エンディングテーマ作詞：meg rock コメント・・・・・・・・ 40

エンディングテーマ「étoile et toi」歌詞・・・・・・・・ 41

特典 CD「怪物篇」劇伴音楽集 其ノ貳 熱血篇 収録楽曲一覧 43

音楽スタッフクレジット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

プロダクトスタッフクレジット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

〈Ⅱ 冷血篇〉 予告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

II 熱血篇

高校二年の春休み。

阿良々木暦は、伝説の吸血鬼

キスショット・アセロラオリオン・

ハートアンダーブレードと行き遭う。

彼女によって吸血鬼となってしまう暦が

再び人間になるためには、

四肢を失い吸血鬼としての力が

弱まった状態の彼女を、

完全体に戻さねばならなかった。

かくして暦は、キスショットの体を奪っていった

三人のヴァンパイア・ハンターたちと対峙する。

筋骨隆々の巨漢で同級生しの吸血鬼、ドラマツルギー

巨大な十字架を武器とするヴァンパイアハーフ、エピソード。

神父のような出で立ちをした人間、ギロチンカッター。

人であることを取り戻すための、
人をはるかに超えた戦いが始まる――

ドラマツルギー



「……では始めよう」

ドラマツルギー

キスショットを狙う
ヴァンパイア・ハンターの一人で、
身長二メートルを超える筋骨隆々の大男。
両腕を巨大な剣に変えて攻撃する

声：江原正士



最初にVOFANさんが描かれたドラマツルギーの顔は、ちょっと化け物っぽい印象で、西尾さんから「もっと人間っぽくしてほしい」という要望がありましたので、まずVOFANさんに修正いただき、それをベースに描き起こしました。

自分のドラマツルギーのイメージはアメコミキャラっぽい、上半身がでかいマッチョだったのですが、新居さんと尾石さんから「マッチョでいいけど、もう少しスマートにしてほしい」とオーダーがあり、足を長くして顔を小さく調整しています。

そのせいもあって対比表で見ると、このキャラだけ身長がかなり大きくなっています。

キャラクターデザインについて

超ウケる



ヒビノ ドラ

エピソード

声：入野自由

キスショットを狙うヴァンパイア・ハンターの一人で、
ヴァンパイアと人間のハーフ。

白い学生服を着ている。

武器は巨大な銀の十字架。



当初は映画が初出の予定でしたが、先に『偽物語』で3カットだけ出るようになったのです。ただ映画でも使う前提だったので、TVの時にキャラクター設定を起こしました。

その時は、実年齢が6歳のキャラということで多少子供っぽい雰囲気にはしていましたが、尾石さんに「あまり子供っぽくしたくない。クールでキザな感じが欲しいので、劇場用に修正してほしい」とオーダーがありましたので、表情や髪の色を少し変え、鋭く、カッコいい印象にしています。

渡辺明夫



ギロチンカッター



「……不愉快ですねえ」



キスショットを狙う

ヴァンパイア・ハンターの一人。

ハリネズミのような髪型をした

見た目だけは大人そうな男。

武器らしい武器は所持していない。

声…大塚芳忠
ギロチンカッターキャラクターデザイン
デサイ

TVシリーズに出てきた時はキャラクター設定がなく、私が直接原案を描いていて、設定はラフしかなかったのですが、今回は、劇場版のために設定を起しました。このキャラもVOFANさんのラフを元にはしていますが、膝の構造が凄く難しいです。変わったところから紐が出て十字架がくっついていたり、服の裏表がよくわからなくなったりしますが、そこがかっこいいところなので、VOFANさんのイメージを極力壊さないようにしつつ、アニメの設定として成立するように心がけています。

渡辺明夫

総作画監督

演出

守岡英行 × 宮本幸裕

特別対談①

信頼の置ける原画マンに 楽をさせてもらえました

——〈II 熱血篇〉公開後の反響や評判、あるいはご自身の手応えなど、どのように感じていますか？

守岡 僕は劇場に6回観に行きました(笑)。ファンの方々がいちばん期待を寄せていたのはヴァンパイア・ハンターとのバトルシーンなのではないかと。あとは羽川のサービスシーン(笑)。とても良くて「ヨシ！」と手応えを感じました。

宮本 もちろん、作っているときから手応えはあって、原画さんが描いてくれたレイアウトや原画をみて「上手いなあ。すごいなあ」と。もはや僕は「チェック済み」という文字を書いたら、それだけでOKというレベルのものばかりだったので、とても楽し

た(笑)。作画さんとか、その後の作業の方は大変だったと思いますけど……。

守岡 Cパート作画を担当された大堀(博之)さんは真面目さがレイアウト修正から伝わってくるような方で、すごく信頼を置いていました。Dパート作画の滝山(真哲)さんはスピードと絵に艶のある方で、Dパート全般にわたってサポートしていただいて、すごく助かりました。各パート毎に作画の持ち味が出ていると思います。

——バトルシーンにファンの期待が寄せられていたということで、心がけたことはありましたか？

守岡 総作画を僕と山村(洋典)君でキャラクターごとに担当を分けることになって、僕が担当したのは主に羽川・キスショットが中心でした。〈II 熱血篇〉も相変わらず羽川地獄……いや、羽川天国でし

たね(笑)。あと羽川にちなんで言えば、エピソードで羽川が奮つて内臓が描かれる場面がありますが、あそこは阿部(蔵一朗)さんが担当されています。

宮本 阿部さんは内臓ばっかり描いていた印象があります。いえ、内臓以外にも描かれていますけど。

——宮本さんはバトルシーンについて心がけたことは？

宮本 演出としては常にテンポをよくしようとか、溜めるところは溜めようとか、見せるところはちゃんと見せようとか、ちゃんと考えているんですけど、それは当然、原画さんも考えているところで、僕がすることは何もなかった(笑)。心がけたことは「カッコよくしたいな！」ということです。でも、上がってきたものが真にかっこよかったということ

ですね。

——作画打ち合わせの段階で「かっこよく」というオーダーが出されていたんですか？

宮本 そうですね。これは尾石(達也)さんが言っていたことなんですけど「コンテと変えてもらっても構わないです」と。「バトルシーンで動きに変化がついたりとか、見せ場になるところができたりののであれば、そこは尺を伸ばしても構わない」と言っていたんですね。実際、アクションを増やして尺が伸びているんだけど、かっこよくなっているシーンがありました。もちろん尾石さんのオーダーをすべてクリアした上で、さらにその上を飛び越えてくるんですよ。カットが長くなってもだれることもなく、すごいなと思いました。

青春映画としても 描かれている『傷物語』

——守岡さんが羽川のシーンを中心に担当されて

いたということなので、羽川を描く上でポイントにされていたことなどをお聞かせください。

守岡 ポイントになる動きや尾石さんの中で明確なイメージがあるところは、尾石さん本人が自分で実際に芝居をするのを動画撮影していて、それを元にアニメにしているんですよ。

宮本 アフレコだとまだ絵がそろっていないから、尾石さん本人が動いているのに声をあてることになるわけで、声優さんたちにもウケていたところですね(笑)。たとえば唇がコーラを振るカットなどがそうです。尾石さんのお芝居がだんだん上手くなっていくのも、ちょっと面白かったです(笑)。

守岡 作画するときには、もちろん、実写の尾石さんをそのままトレースするというわけではなくて、そのあたりは各原画マンの裁量に任されていたりします。僕が特に気を付けたのはデリケートな芝居のやりとりでの表情付けなどで、特に河原のシーン。青臭いシーンなんですけど、いきなりパンツを脱ぎ出したりとか「そんなバカな！」と思いながら描いて

いました。どうということなんだろうと(笑)。

——ただ、パンツを脱ぐところも含めて、シーン全体で見ると、ちゃんと青春していましたよね。

守岡 確かにそうですね。でもパンツを脱いじゃってますから(笑)。あそこさえなければ誰にでもお薦めできるのですが(笑)。僕自身が気に入っているシーンは松本(元氣)君が原画を担当した、ノーパンの羽川が何もかも吹っ切ったような笑顔で草原を走っていくところ。羽川の心の中でひとつ、何か変化があったのかなって。あのあたりはアニメーションならではの解釈というか、いいシーンだったと思います。

宮本 草原のシーンは阿良々木君のほうも好きですね。これも松本さんが担当したところで、阿良々木君がパンツを引っ込めようとした羽川に「いやいやないとは言っていないよ！」と近寄ってくる部分が好きでした。

——羽川のシーンというと、基本的に隈と一緒に出てきているということになりますよね。

守岡 完全に藤オンリーのところは山村君に振って、羽川が絡んでいると自分のところに来るという男は山村君、女は僕というような感じの分け方だったので、キスショットも基本的に全部、自分に回ってきていましたね。

——〈Ⅱ 熱血篇〉のキスショットは年齢の描き分けも大変だったのではないのでしょうか？

守岡 10歳、12歳、17歳ですね。尾石さんの中で明確なヴィジョンがあって、12歳は思春期の少女が持つアンニュイさを表現して欲しい、ロシアの美少女のような感じで描いてほしいと言われてました。髪も鎖骨の形が出るような、サラサラとしたロングヘアを意識して描いてほしいと。17歳は大人の女性の入り口というか、明朗快活な美人という感じで。完全体になるとすごみが加わっちゃうんですけど、その前のちょっと少女性を残したお転婆なイメージが尾石さんの中にはっきりとあって、なるべくそう見えるように意識して描きました。それを演じ分けた版本（真綾）さんはすごいです。やっぱり、

声優さんはすごいです！（笑）

——キスショットは自分の脚を飲み込んで、口が脚の形になるシーンもインパクトがありました。

富本 そういえば、脚を抱えてビテビテッとなっている部分。あれは昔のCMで魚を持った男の子が出てくるので、それを見て作画打ち合わせをしていました。

——これは作画ではなく演出的なことになりますが、時系列をいくつか入れ替えて見せているシーンも印象的でした。エピソードに羽川を偏つけられて怒る層であるとか。

富本 あれは完全に尾石さんがコントロールしている演出ですね。コンテの段階でそう言う見せ方になっていますので。先に層が走り出していて、そのあとにメメに詰め寄る、みたいに、時間を全部入れ替えています。これは尾石さんの発想で、尾石さんの力量が感じられる見せ方だと思います。

守岡 いわゆるジャンプカットですね。尾石さんは多用するんですが、そのシーンでは層の混乱を表し

ていたんだと思います。本人に聞いたときも、その通りだとおっしゃっていました。

作画の限界に挑んだ ドラマツルギー戦の雨

——〈Ⅱ 熱血篇〉で守岡さんご自身が原画を担当されたカットはありましたか？

守岡 〈Ⅱ 熱血篇〉は3カットだけ担当しました。——富本さんは〈Ⅱ 熱血篇〉の制作に関わる中で、印象的な出来事はありましたか？

富本 これは私事になるんですけど、出産のためにお嫁さんが入院しまして、着替えを持っていったりとか、産まれたら産まれたでいろいろあったりして、そのときちょうど〈Ⅱ 熱血篇〉の納品の近くだったんですよね。それが大変でした（笑）。子供が産まれた日にも、病院でシャフトの原作さんとショートメールのやりとりをしていましたからね。

——ちょうど同じタイミングで、人生の大事な節目

を迎えられていたということですね。

富本 尾石さんには、〈Ⅱ 熱血篇〉にちなんで「子供の名前は熱血君にしなよ！」と言われました（笑）。本篇の話を戻すと、戦闘シーンは全部が悪い出に残っていますね。その中でも特に印象に残っているシーンだと、雨が大変だなあ……って。原画さんからも「雨さえなかったら……」という話を何度も聞かれています。

——ドラマツルギー戦の雨ですか？

富本 そうですね。尾石さんも雨にはこだわられていました。「今まで見たことないものにしてほしいんだ」とお願いして、今だから言えますけど、絶対に間に合わないレベルだと思っただけ、間に合っても原画さんの心が折れるなって思っていて。キャラクターの動きに合わせて、雨の飛沫が飛んでいく。これ、全部手描きなんですよ。

守岡 最初に阿部（巖一朗）君に、雨が跳ねるパターンを作ってもらって、それを参考に担当原画マンに作図して頂いて、処理の統一を図っていました。カッ

トごとにバラつきが出ないようにと。

富本 バラバラめくると雨が1粒1粒ちゃんと移動しているんですよ。雨なんて1秒ごとに次々と発生しているものですから、その流れを全部ちゃんと追いかけているんだなと思いました。

——最後になりますが、〈Ⅲ 冷血篇〉に向けての意気込みや見どころをお聞かせください。

守岡 〈Ⅲ 冷血篇〉は再び、層とキスショットの話がメインになります。見どころはキスショットと層のスーパーバトルですね。ヴァンパイア・ハンター戦より、更に過激になっていて「これ、大丈夫……？」という程の（笑）。始まりの物語でもあるので、原作未読のファンの方たちは〈Ⅲ 冷血篇〉を観ることですべての顔が繋がると思います。

富本 演出の担当パートは大きく2つに分かれていて、鈴木利正さんが前半、僕が後半のパートを担当しています。僕のパートにはバトルシーンがありますが、前半には体育館での層と羽川のシーンがあります。あちらはあちらで「R指定になるんじゃない

か？」というくらい名言がいっぱいありますので（笑）、お楽しみにしてみてください。

プロフィール

守岡英行
もりおか・ひでゆき……主な参加作品に「まりあほりっく」(キャラクターデザイン・総作画監督)、きよなら絶望先生(キャラクターデザイン・総作画監督)など。

富本零裕
みやもと・ゆきひろ……主な参加作品に「劇場版 魔法少女まどか☆マギカ」(監督)、「ニセコイ」(チーフ演出)など。

キスショット・アセロラオリオン・ハートアンダーブレード

羽川翼 役

坂本真綾

堀江由衣

ヴァンパイア・ハンターの活躍で
ちょっと気が楽になった部分も

——〈Ⅱ 熱血篇〉の台本を読まれたとき、どのような感想を抱かれましたか？

坂本 〈Ⅰ 鉄血篇〉のときは出演者がもっと少なく、ひとりひとりのセリフ量も多く、見せ場も濃厚な場面があって、台本を読んだ段階で「これは大変だな……」と感じたのですが、〈Ⅱ 熱血篇〉はヴァンパイア・ハンターさんたちの活躍も増えて、ちょっと気が楽になった部分があります（笑）。

堀江 私は真綾さんとは逆に「あ、意外と（羽川が）

出てるな」という感じでした（笑）。たぶん〈Ⅰ 鉄血篇〉より出番が多かったと思います。

——まず、出番の多さを気にされていた？

坂本 多い・少ないを気にしているわけではないですけど、事前の心構えとして、収録に挑むにあたってどのくらいのセリフ量になるのかは気になります。劇場版なのに、出演者の数が極端に少ない作品なので、ほかの作品よりもその辺りは気になりますね。いちばん大変なのは音なんですけど、どのくらい見せ場・アクションシーンがあるのか？というの、ちょっと怖い部分があります。

堀江 わかります！ 私ら〈物語〉シリーズは先に

出番を見ちゃうクセがつかしました（笑）。

坂本 あとは途中経過とありますが、完全体に至るまでの、今までにあまり演じたことのない年齢感のキスショットがいるので、どのくらい差をつけて演じようかな？ということを考えてたりしていました。

——各年齢での役作りに関しては、監督や音響監督と相談しながら決めていったんですか？

坂本 まずはテストで私なりに思った通りにやってみたら、「そんな感じで」みたいな雰囲気ですっとうりました。ただ、17歳のキスショットに関しては「もうちょっと若さを出してほしい」と言われました。でもそのくらいでした。ただ、10歳

と17歳は差がはっきりつけられると思うんですけど、10歳と12歳の違いは何だろう？と思いました。その微妙な年齢の差を出すのは難しかったです。

——たとえば、ご自身の10歳や12歳の頃を思い出すというのと、ちょっと違いますからね。

坂本 でも、世にいう12歳って思春期に入るあたりで、そこから女の子は女っぽくなってくるのかなと思って。絵も表情も「12歳のくせにずいぶん色っぽいな」と思ったので、“女”がちゅっと匂い始めた感じを出せばいいかなと思いました（笑）。

——羽川を演じるうえで、大変だったことは？

堀江 前回の〈Ⅰ 鉄血篇〉からなんですが、思ってもみないリアクションをとる印象がありました。TVシリーズでの羽川さんって名探偵感というか、パーフェクト感が強いんですけど、『傷物語』ではその前段階の初々しさがあるなと思いました。岡

良々木君とのやりとりの中でドキドキしたりとか、顔を赤らめていたりとか、変なリアクションをとっちゃったりとか、自分が思っていた以上に色濃く出ていたので、「羽川さんでありつつもリアクションは初々しく」というバランスに気をつけて演じました。

愛されすぎている羽川に
嫉妬しています（笑）

——お互いの演じるキャラクターについては、どのような印象をおもちでしょうか？

坂本 『傷物語』って、キスショットの話だと思っていて……たぶんそのはずなんですけど、〈Ⅰ 鉄血篇〉を見たときからキスショット以上に羽川の描写が細かいんです。しゃべっていないときも、いちい

ちぐさがかわいいんですよ。アフレコの段階で絵を見ているときから「ずいぶん丁寧に描かれているなあ」「動きがかわいいなあ」と思っていたのですが、初めて試写で声が乗ったものを見たら「これ、完璧じゃないか！」と。「こんな完璧にかわいいやつが出てきたら、どっちがヒロインかわからんぞ！」という危機感を感じて……。そのときは「（キスショットと羽川では）ベクトルが違うんだ」と自分に言い聞かせつつも、〈Ⅰ 鉄血篇〉が終わった瞬間から神谷（浩史）さんや榎井（孝宏）さんがどこでもかきこでも「羽川がかわいい」という話ばかりしていて「やっぱりね！」って（笑）。そういう意味では、キスショット的にも、私的にも「羽川っ……！」という敵意を持っています（笑）。「羽川、かわいすぎやしませんか？」と。「愛されとるな～」という印象です。

堀江 確かに、それは感じますね（笑）。

坂本 感じますよね！

堀江 私も映像を見て「どうしよう？ どう演じよう？」と悩むくらい、かわいいなと思いました。あざといくらいのかawaiiさみたいなものがあるんですよ。狙っているというか、羽川敦清というか……。尾石（達也）監督がおっしゃっていたんです。「（化物語で）報われなかった羽川が報われてほしい」という意図があったということ。いろいろな意味で、男子が夢に見ていそうなヒロイン像になりましたね。

——キスショットについては、いかがですか？

堀江 今回のシリーズは、ありがたいことにいろいろな年代のキスショットが見られて、お得だなと思っています。ここでこんなことを言うのも恐縮ですが、私は個人的に真綾さんのファンで、いろいろな年代

のお声が聴けるのは役得という気持ちで、いつも拝聴しております（笑）。絵柄もTVシリーズと違って、最初からかわいく衝撃的だったんですけど、そこから徐々に大きくなっていて、どんどん美少女になっていって……。

——ちなみに、どの年代のキスショットがいちばん好きですか？

堀江 いちばん小さい頃が……（笑）。真綾さんのお声としてはレアだなということで。

坂本 何目線なんですか……？

堀江 もちろん、ほかにもそういうお役を演じられてはいるんですけど。

坂本 「お役」（笑）。

堀江 でも、大人の印象のほうが強いので「あ、すごく新鮮。うれしい！」って思います。

坂本 堀江さん、いつもこんな感じで……。

堀江 だ、大丈夫ですか？

坂本 もう慣れすぎちゃって「この人、私のファン」っていう意識です（笑）。ふだん共演者にこんなふうに言われることってあんまりないので、おもしろいです。

堀江 すみません！ 私もどこからか包み隠すことをやめてしまって、オープンにするって決めちゃったんです。ご迷惑にならないかぎりは言い続けていこうかと思っています（笑）。

今までの阿良々木君よりも男の子らしさを感じました

——ヴァンパイア・ハンターたちについての印象も、お聞かせいただけますか？

坂本 三者三様、それぞれ個性も違うし、キャスト

の皆さんもびったりだなと思いました。

堀江 「三者三様」というのが、まさにびったりな言葉で、いろいろなタイプのヴァンパイア・ハンターがいるんだなと見ていて思いました。最後のギロチンカッターさんが、お話の流れ的にはしょうがないんですが、意外と早く決着がついてしまったので、もう少し見たかったなという感じがありました。エピソード君は「猫物語」とかで羽川さんと何回か会ったことがありますよね。なので、懐かしきもあったんですけど、ここが最初の出会いであると、自分の認識を逆転させるようにしていました。

坂本 エピソード役の（入野）自由君とは一緒に収録できなかったのですが、台本の書きに「黄金バットみたいに笑う」と書いてあるシーンがあって「何これ？」と思っていたんですね。それをどうやったのかわからなくて、試写で初めて見たときにツボに

入ってしまって……。見せ方もそうだし、カット替りもそうだし、自由君の声もそうだし、すごく印象に残って、見終わってすぐ自由君に「エピソード、すごくよかったよ」とメールをしたら「意外なところを褒められましたね」と返ってきました（笑）。——忍野については、どんな印象がありますか？

堀江 忍野さんは「もっと出てくればいいのになあ」と思っているキャラクターなので、今回はずっと出てきてくれているのでうれしいです！

——忍野のどんなところが気になりますか？

堀江 忍野さんって、謎が多いですよ。そこが魅力のひとつというか、かっこよさでもあったりするので、少しでもその謎が知りたいです。今回も、何もわからなかったですけど（笑）。

坂本 私としても忍野は好きなキャラなんですけど、キスショット的には会話をしていると、何とも

言えない居心地の悪さを感じるような……。どこまで本気で、どういう真意があって言っているのか？常に腹の内を探らないといけないような感じもあり、また櫻井さんの飄々とした感じが怪しくて、セリフのやりとりをしていると私も「この空気に飲まれまい！」と、自然となるんですね。「忍野の流れに乗らないぞ！でも、なんか引っ張られちゃう……」って、キスショットも踏ん張っている感じかなと思いました。そういうところがかっこいいのが、忍野はずるいなって思います。

——「忍野と会話していると居心地の悪さを感じる」というのは堀江さんからは出てこなかった感想なので、おふたりの印象の違いが面白いですね。

堀江 確かに、羽川さんはあまり絡んでもらえずで、どうやら避けられているらしいので。それはコメンタリーで判明したんですけど（笑）。

坂本 私はふたりか3人のシーンしかないんですよ。

ね。盾とふたりか、忍野が入って3人か。どちらかというと、ふたりのシーンのほうが落ち着いてできるんですよ。忍野がいると落ち着かない……という。と櫻井さんに悪いけど（笑）、忍野との絡みのシーンが終わって、次に盾とふたりだけのシーンになったとき、スタジオに櫻井さんがいると出ていってほしいと思うくらいなので（笑）。「どうぞ休んで、休憩してください」とか言って。

堀江 面白いですね（笑）。

——それもまた『傷物語』の現場ならではのお話なのかと（笑）。では、盾はいかがでしたか？

堀江 阿良々木君は今回のシリーズでいうと、普段の立ち位置と逆というか、普段のシリーズよりも男の子らしさを感じます。特に、著書しているところで触って……みたいなシーンはあまりなかったな

と。あったとしても、しばらく昔だなんて。

坂本 確かに、今までになく男らしく見えて、腹筋に目がいっちゃう。「そりゃ触るわ」って（笑）。

堀江 触りますよね、ついうっかり（笑）。

坂本 でも、不器用ながらも必死に戦っている姿が健気というか、とても頼りなくも見えるのに、心の中で「最後にはきっと何とかしてくれる」という不思議な信頼感もあって。頼りないのか、すごく頼れるのか……両方あって、不思議な魅力がある。それをこのシリーズで特に感じますね。

十代特有のアドレナリンが きっと羽川からも出ていた

——特に印象に残ったシーンやセリフは？

坂本 「ぐう」って言うのが好きです（笑）。

——キスショットが眠るシーンですね。

坂本 「どうやって言おう、これ……？」と思って。もっと生っぽいイビキがいいのか、はっきり「ぐう」って言った方がいいのか悩んで「ぐう」って言うてみたけれど、誰にも何も言われなくて。

堀江 でも、かわいかったですよね。

坂本 あとは、盾が脚を持って帰ってきてどうするのか？ と思っていたら、キスショットがひとりで食べた場面。アフレコのときは録画でぼんやりとしたアウトラインで描かれていたもので、できた映像を見て「こうなっていたんだ！」とビックリしました。ショッキングな場面ですけど、面白い。そして、脚がすごくきれい！ 活きのいい魚みたいに「おっとっと……」ってやっているのも好きでした。グロテスクなはずなんですけど、嫌な感じに見えない。声を録ったときは脚をくわえていると思っていた

て、口に入っているとは思っていませんでした（笑）。

堀江 私は草原のシーンですね。青春っぽい、大きな声で話していて、それがすごく素敵なシーンなんですけど「なんでだろう？ なんで急に大きな声を出したんだろう？」と思ってしまって（笑）。でも、実際に収録してみたら「これこそが青春かもしれない!!」みたいな気持ちになれて、楽しかったというか、ときめけたというか、いろいろな気持ちが湧き出してきました。物理的に広いからとか、「宣言」という意味とかもあるんですけど、大人があまりやらない感じで、すごく素敵だなと思いました。

——「健闘を祈る」のところですよ。

堀江 その前辺りからですね。「健闘を祈る」のところは最終的に距離があったから、その前から感情が高ぶって……みたいなところが「いいなあ、十代」って思います。きっとアドレナリンみたいな

……“十代アドレナリン”があるんですよ！

坂本 「周りが見えない」みたいな？

堀江 「あなたが見えない」みたいな！ ちょっと恥ずかしいくらいいのが、十代っていう感じがするじゃないですか。そこがすごくよかったなと思って、印象に残っています。

——では、ファンへのメッセージをお願いします。

堀江 〈物語〉シリーズのまさにエピソードゼロ的な最初のお話で、ここから〈物語〉シリーズに触れた方は逆にラッキーだと思います。〈Ⅱ 熱血篇〉を見てくださった方は最後の〈Ⅲ 冷血篇〉まで見ていただいて、次は『化物語』から順に〈物語〉を追っていただけたらうれしいなと思います。

坂本 本当に妖艶で素敵な、キスショットの美しさがすごく出ている〈Ⅱ 熱血篇〉だと思います。だからこそ美しいキスショットを今のうちに堪能して

いただき、美しさだけじゃない彼女の本来の姿も受け入れていただければと思います。尾石さんの気合いの入った絵を何度でも見ていただいて、〈Ⅲ 冷血篇〉への準備をしていただければと思います。

プロフィール

坂本真綾
さかもと・まあや……近年の主な出演作品に『攻殻機動隊 新劇場版』（草薙素子役）、『アルスラーン戦記 風塵乱舞』（ファランギース役）、『PERSONA3 THE MOVIE』（アイギス役）など。

堀江由衣
ほりえ・ゆい……近年の主な出演作品に『魔法つかいプリキュア!』（リコ／キュアマジカル役）、『にゃんぼー!』（シロ役）、『初恋モンスター』（二階堂夏歩役）など。

駆けだす翼、曆の意地

成達シーン解説①

作画監督・原画…大槻博之



—— 画作り、監督や演出とのやり取りについて

大槻 最初、カメラの移動がわかりづかったので尾石（通也）さんに何度も質問したり、代々木体育館まで行っていただいたりして、何パターンか描いてみてから決めました。立ち位置は前後と全く合っていないというので割り切って配置しています。

—— カットのポイントや注目の箇所について

大槻 羽川が勢いよく扉の隙を通り過ぎて、上手く曲がれず、少し足がもつれるような感じで体勢を崩してから、振り切るように走り去るという動きで心が伝わればと。あとは羽川のおさげの動きのそれっぽさが出ていればいいのですが。

—— 実際に完成されたフィルムをご覧ください

大槻 背景が CG なのでレイアウト時はポイントで十数枚カメラの動きを伝える背景アタリを描いたのですが背景がついて動くと一緒にそれらしく見えますね。このシーンに限らず完成したのを見るときは反省点が目に付くので胃が痛い思いで見えています（笑）。

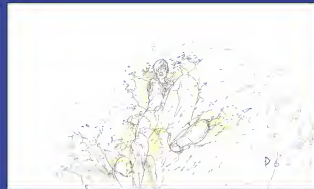
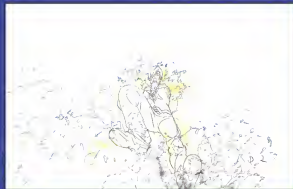
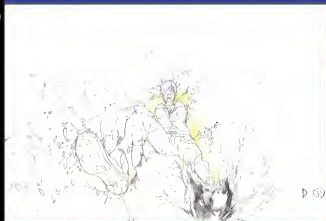






VS
ドラマツルギー

厳選シーン解説②



原画…下司祐也



—— 画作り、監督や演出とのやり取りについて

下司 担当させていただいたシーンでは、「層の必死さが伝わるように」とオーダー頂いたものでそういった気分になるように、カメラの高さなど様々なことを相談させてもらったり、層上の広さや水の量などはある程度アニメ的な味をつけて、心情を優先させるカット作りをめざしました。

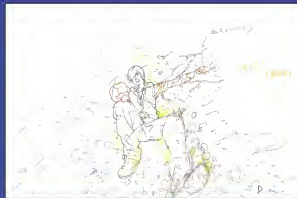
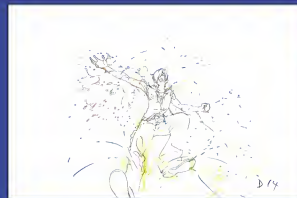
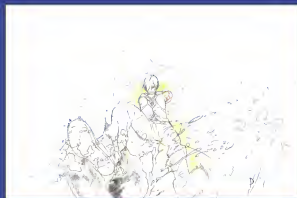
—— カットのポイントや注目の箇所について

下司 体に当たる雨は尾石さんの意向で送りの作画になっています。作画の阿部（地一朗）さんが作った参考素材（スゴい）を頼りに作業しました。

—— 実際に完成されたフィルムをご覧になって

下司 全てのセクションのがんばりが伝わってくる作品に思えました。自分のシーンや、修正を手伝った箇所は反省点が見えてきたので、冷血黨に向けて頑張ります。







キスショット、12歳

映画シーン解説3

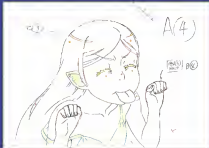
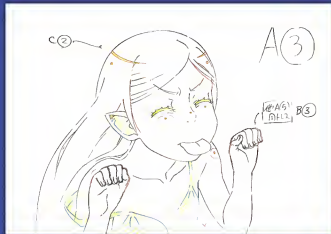
原画・熊谷勇也

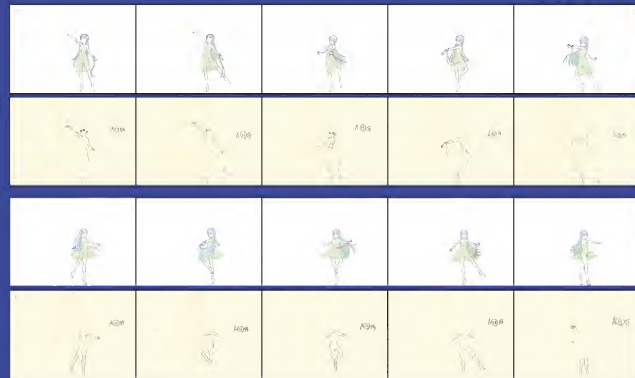
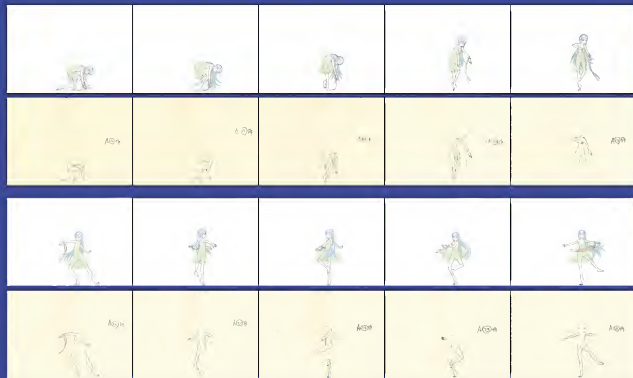


——制作、監督や演出とのやり取りについて
熊谷 キスショット（12歳）の登場シーンは、とにかく身軽でアンニュイな妖精の感じを出したいということで、バレリーナの精緻された動きを参考にして軽やかに表現してほしいと言われました。Cパートのラストであり、12歳姿のキスショットは劇中でほとんど出てこないのので、印象付けるためにとびっきり可愛く頼むともオーダーがありました。その愛をえた際が必に夢いシーンが上がっていることもあって、背伸びのあるシーンになればいいと思って描きましたね。

——カットのポイントや注目の箇所について
熊谷 立ち上がってからくるくる回っているところはだいぶ苦労して描いたので見てほしいですね。あとは、腰が回り込みながらキスショットを低めまわすように見るカットは、妙にテンションの上がった面を表現するために、かなりの原画枚数を使っているのでもって見えてほしいです。

——実際に完成されたフィルムをご覧になって
熊谷 概ね思った通りの出来になっているので良かったです。ただ、バレリーナのように回転するキスショットの部分が傾きが残るといいますが、もう少しちゃんと、主にバレエの基礎を勉強してから動きを作るべきだったと反省しました。個人的に12歳姿のキスショットのビジュアルは大好きなので、自分で原画を描いておいてなんですが、スクリーンで観ると、この子可愛いなぁと思って見ていました。







エンディングテーマ作詞

meg rock

●歌詞はフランス語になっていますが、作詞はどのような工程で行われたのかお聞かせください。

〈物語シリーズ〉では、日本語、英語、ドイツ語でリリックを書いたことがあるのですが、今回はフランス語をお願いします！とのオーダーをいただき（何々国語話せると思われているんだろう？〈笑〉）、ごくシンプルで、でも、ぎゅっと濃縮したような言葉を選びました。フランス語ならではの言葉の響きを、並べ方でちょっと遊んでみたりしてます。

●『傷物語』は時系列的に最初の方のお話になりますが、TVシリーズを経てきたことで今回の作詞で活かされたことがありましたらお聞かせください。情報量が増えたことにより、逆に感情も研ぎ澄まされて、よりシンプルで普遍的な言葉運びができた気がします！

●クレモンティーヌさんの歌が入った曲を聞かれた感想をお聞かせください。

本物だ！ってなりました！（笑）

クレモンティーヌさんの歌の雰囲気とフランス語独特の響きが、もう、これぞまさに！という黄金比率で、しかもそれが自分の書いたリリック、というのは、なかなか凄まじい経験なんじゃないかと思います！鳥肌！

●鉄血篇、熱血篇を見られたご感想をお聞かせください。

少し先の未来を知っているからこそ、何気ない日常のやりとりなどのふとしたところでも、大号泣の連続でした！

●パッケージを買っていただいたファンの皆様に、メッセージをお願いします。

観れば観るほど、聴けば聴くほど、新しい発見をしていただけるかも？何度でもお楽しみいただければ幸いです！

étoile et toi

歌：クレモンティーヌ
作詞：meg rock
作曲：神前 睦
編曲：神前 睦、高田龍一

制作協力：樋口宣哉、河井留美

étoile et toi
et toi et moi
le monde est vous
vous êtes le monde

étoile et toi
et toi et moi
tout ce que je vois
tout ce que je ressens
tu es mon univers

je peux vous entendre appeler mon nom
je peux te sentir dans mes bras
et c'est l'amour
qui va durer pour toujours

étoile et toi
et toi et moi
tu es mon univers

je peux vous entendre appeler mon nom
je peux te sentir dans mes bras
et c'est l'amour
qui va durer pour toujours

étoile et toi
et toi et moi
tu es mon univers



TRACK LIST

熱血管タイトルバック

寡聞

スパシーボ！

気に障ること

辛辣

学園異能バトルⅠ

学園異能バトルⅡ

学園異能バトルⅢ

友達面

食事中

貴重種

命の恩人

私のせい

いけない悪戯

眼鏡の委員長特集

ヴァンパイア・ハーフ

悪い者いじめ

力づく

煩ずり

四月五日

わかっていたつもり

お役御免

その布

別れの余韻

沈痛

千年樹

étoile et toi

次回、冷血篇

MUSICIANS & STAFF

作曲：神前 暁 (MONACA)

編曲：神前 暁 (MONACA)、高田将一 (MONACA)、神波 哲

Chorus：竹内志明、仁科かおり

Guitar：伊丹繁樹

Piano、Fender Rhodes：松浦真人

Bass：渡辺 悠

Drums：伊藤史郎

Flute：志本りえ

Trumpet：佐々木史郎

Tenor Sax：鈴木明男

Strings：真部 裕ストリングス

Programming：神前 暁 (MONACA)、高田将一 (MONACA)、神波 哲

Recorded, Mixed & Pro Tools Operated by 近藤圭司 (SIGN SOUND LLC)

Recording Studio：Sound City

Mixing Studio：Sign Sound Studio

Recording Co-ordination：みすみゆり (MONACA)

Mastering Engineer：斎藤裕司 (Sony Music Studios Tokyo)

Mastering Studio：Sony Music Studios Tokyo

音楽プロデューサー：山内東生

「傷物語」
劇伴音楽集
其ノ貳
熱血篇
収録楽曲

開発・水曜：神谷浩史
キスショット・アセロラオリオン・ハートアンダーブレード：坂本真綾
現川 真：堀江由衣
志野メメ：櫻井孝宏
エピソード：入野自由
ドクマツルギー：江原正士
ギロチンキャッター：大塚正忠

STAFF

原作：西尾維新『魯邦伝』（講談社 BOX）
キャラクター原案：VOFAN
総監督：新原和之
監督：尾石達也
脚本構成：宮富智子・新原和之
キャラクターデザイン：渡辺明夫・守岡英行
作画監督：守岡英行・山村洋貴
作画監修：大橋裕之・尾山英哲
美術監督：島島克治
美術設定：武内英之
色彩設計：日辻野仁
CGディレクター：高野慎也・沼波友久
VFXスーパーバイザー：加藤浩貴
撮影監督：会津孝幸・江藤慎一郎
編集：松原博志
音響監督：黒岡隆太
音楽：神谷 皓
アニメーション制作：シャフト

PRODUCTION STAFF

ジャケットイラスト
デジタル作画：守岡英行
プロダクション編集：渡辺明夫
デザイン：高橋 真（yml）、高岡伸生（yml）、山口美幸（yml）
エンコーディング：田所光樹（MAGDO）、千原聖（MAGDO）、山口真行（MAGDO）
オーサリング：千原聖（MAGDO）、山口真行（MAGDO）
制作進行：内藤あづさ、藤澤優子、永岡昌祐
編集担当：工藤所貴、小野幸恵
美術：高橋和典、大谷孝隆子、相沢裕也
制作：渡 明夫、山口真也、高橋 幸、山下宏子
プロデューサー：池上英樹
制作：新井周之、矢野昌史（シャフト）、尾山英哲（シャフト）、
西沢真祐（シャフト）、矢島真知子（渡辺明夫）、石塚幸希（講談社）

MENU DESIGN

企画：渡辺和典（アパコ株式会社）
ディレクター：KYOYUko（PLAMOV）
デザイン：HISHO（PLAMOV）
プロデューサー：大橋裕和（アパコ株式会社）、渡辺明夫（アパコ株式会社）

「お——お前と——戦うっていうのか？」

「出ていくさ——、仕事は済んだしね。
——失敗という形でけど」

「ずっと——暇じゃったよ」

「——だから——死んじゃ、ダメだよ——」

「——僕のせいで、人が死んだ」

「——僕の元へ帰れ。僕と共に、生きよ」


「君と約束した覚えはないよ、ハートアンダーブレード」

「死んでくれ我が主人!!」

「死ぬがよい我が従僕!!」

III
冷血
傷物語篇


2017年1月6日公開

1. 本編：DTS-HD Master Audio 5.1ch(96KHz/24bit) 2. 本編：DTS-HD Master Audio 2.0ch(96KHz/24bit) 3. オーディオコメント：DTS STEREO	APPROX.68min.	1 冊	16:9 HD シネマスコープ 1920×1080p (一部特典映像 HD ワイドスク リーン 1920×1080i)	 <small>DTS, The Symbols, and DTS HD are registered trademarks of DTS, Inc.</small>
特典映像： リニア PCM STEREO(48KHz/24bit)(一部 48KHz/16bit)	MPEG-4 AVC	COLOR		

- このディスクは、プレーヤーに挿入後、自動的に本編の再生を開始します。
- このディスクは、チャプターメニューでチャプター選択操作をすることができます。
- このディスクは、本編再生中にプレーヤーまたはリモコンの操作により、“ポップアップメニュー”を呼び出すことができます。
詳しい操作方法は、プレーヤーの取扱説明書をご確認ください。
- このディスクには、コピーガード番号が記録されています。プレーヤーからの映像出力をビデオデッキなどを経由して再生すると、
コピーガード番号の影響で映像が乱れる場合があります。プレーヤーの映像出力は、直接テレビモニターにつないで再生して下さい。
- このディスクは、パソコンによっては正常な動作をしないことがあります。
- くわしい再生上の取り扱い方については、ご使用になるプレーヤーなどの取り扱い説明書をおわせてご覧下さい。



ブルーレイディスク（BD-ROM）は高品位の画質や音声を記録した新世代光ディスクです。
BD-ROM 対応プレーヤーで再生してください。



この CD を、著作権法で認められている権利者の許諾を得ずに、①貸貸業に使用すること、②個人的な範囲を超える使用目的で複製すること、③ネットワークを通じてこのCDに収録された音を送信できる状態にする事を禁じます。

【鑑賞上のご注意】

- 視聴する時は、明るい場所で、画面に目を近づけすぎないようにして下さい。●破れている時や瞳孔不足の時は、視聴を避けてください。●ヘッドホンを使う時は、はじめからボリュームを上げすぎないで下さい。また、大音量で長時間続けて聴かないで下さい。
- ＜光の刺激による発作について＞ごくまれに強い光の刺激を受けたり、点滅を繰り返す画面を見たりしていると、一時的な範囲のけいれんや意識の喪失などの症状が起きることがあります。こうした症状のある方は、事前に必ず医師に相談してください。また、視聴中にこのような症状が起きた時は、すぐに視聴を中止して医師の診察を受けて下さい。
- ＜こんなときはすぐに視聴を中止する＞次のような時は、すぐに視聴を中止して下さい。視聴を中止しても治らないときは、医師の診察を受けて下さい。●めまい、吐き気、疲労感、乗り物酔いに似た症状を感じた時。●目、耳、手、腕など、体の一部に不快感や、痛みを感じた時。
- このビデオグラムは、光・色などの映像に関し、現行のテレビ用の表現ガイドラインに準拠しておりませんのでご了承下さい。

- 【取扱上のご注意】
- ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないようにお取り扱い下さい。●ディスクが汚れた時は、乾いた布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取って下さい。ペンジンや静電気防止剤などは絶対に使用しないで下さい。●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。●ひび割れや変形、または接着剤等で補修したディスクは非常に危険ですので絶対に使用しないで下さい。

- 【保管上の注意】
- 直射日光の当たる場所や、高温、多湿の場所には保管しないで下さい。●ご使用後、ディスクは必ずプレーヤーから取り出し、専用ケースに入れて保管して下さい。●ケースの上に重い物を置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをする場合がございます。

●この商品は、一般家庭における私的再生に用途を限って販売されています。従って有償・無償に拘らず、権利者の書面による事前の承認を得ず、貸与・複製・公衆送信・上映等を行うことを禁止致します。

株式会社アニプレックス www.aniplex.jp (PC・携帯共通)

株式会社アニプレックス
【ご購入いただいた商品に関するお問い合わせ】アニプレックスカスタマーセンター
メールによるお問い合わせ：www.aniplex.co.jp
電話：03-5211-7555（土・日・祝日・年末年始除く 10 時～ 18 時）



© 富野健太郎 / 講談社・アニプレックス・シャフト
© 2016 Aniplex Inc. ANZX12203

